



2010年11月10日
森永製菓株式会社

森永製菓 マスコミセミナー

「冬の脅威から身体を守る！ココア健康機能」

～ココア飲用による新型インフルエンザワクチン接種時の免疫賦活効果に関する最新情報～

[2010年11月10日(水) 11:00～12:00 / 東京コンファレンスセンター・品川]

2010年11月10日、森永製菓株式会社ではマスコミの皆様を対象としたココアに関するセミナー「冬の脅威から身体を守る！ココア健康機能」を開催いたしました。

本セミナーでは、これまでの試験管内および動物実験での成果を基にして、今年新たにヒトでの臨床実験を実施いたしました。ココア飲用による新型インフルエンザワクチン接種時の免疫賦活効果について弊社、研究所 分析研究室長 亀井より最新の研究成果を発表いたしました。

次いで、医療現場においてココアの研究に注目し、力をそそいでおられる埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 准教授・研究主任 間藤 卓氏より「臨床現場におけるココアの効用」と共に、ココアにまつわる最新のエピソードをお話いただきました。

冬の健康飲料として多くの方に親しまれているココアには、ほかにも冷え性の改善効果、抗酸化作用、食物繊維による作用、O157などの病原性細菌に対する抗菌作用やヘリコバクターピロリの殺菌効果など、様々な効能が確認されています。ココアの更なる可能性についてご理解いただき、盛会裡に終了いたしました。

尚、本発表内容については先に行われました「第58回 日本ウイルス学会」(2010/11/07～11/09 徳島県にて開催)においても発表をしております。

本日の登壇者プロフィール

亀井 優徳(かめい まさのり)
森永製菓(株) 研究所 分析研究室長

1984年森永製菓(株)に入社。
(株)森永生科学研究所にて癌、感染症の診断、治療を目的とした研究に従事。
98年より、森永製菓(株)研究所にてココアの機能性研究に携わる。医学博士。

間藤 卓(まとう たかし)
埼玉医科大学総合医療センター
高度救命救急センター 准教授・研究主任

1987年新潟大学医学部卒業。
89年東京大学医学部物療内科入局、93年同助手、95年同救急部助手。96年埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター。
99年同講師。専門は救急/集中治療領域の臨床及び研究。医学博士。

講演：新型インフルエンザワクチン接種時の免疫賦活効果

/ 森永製菓株式会社 研究所 分析研究室室長 亀井優徳

これまでの試験管内での試験で、ココア熱水抽出液は季節性インフルエンザウイルスおよび鳥インフルエンザウイルスに対して、高いインフルエンザウイルス感染抑制効果が認められた。また、マウスを使った試験では、インフルエンザウイルス感染によるマウスの死亡を抑制することもわかった。

こうした試験の結果をふまえて、今回、ヒト臨床試験を実施した。試験は、**新型インフルエンザ罹患歴がない被験者を対象に行い、新型インフルエンザウイルスワクチン接種時の免疫応答を検討する**というもの。その結果、中和抗体価はココア摂取群と対象群ともに有意に上昇し、ワクチンの効果は両群でほぼ同等であることが明らかになった。一方、NK 活性においても両群ともに上昇が見られたが、特にココア摂取群での上昇が高く、有意差が認められた。

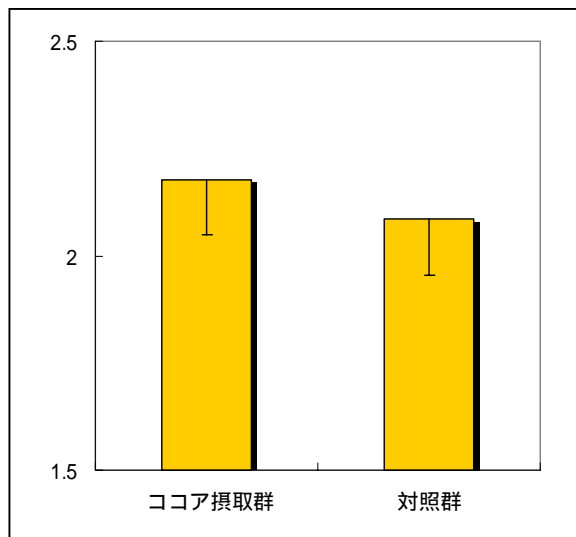


これらの結果を総合すると、**ココアを飲むことによって、通常のワクチン接種によって獲得される中和抗体価(獲得免疫)にプラスして、NK 活性がさらに増強するため、インフルエンザウイルス感染に対してより高い予防効果が期待できると考えられる。**

～ヒト臨床試験～

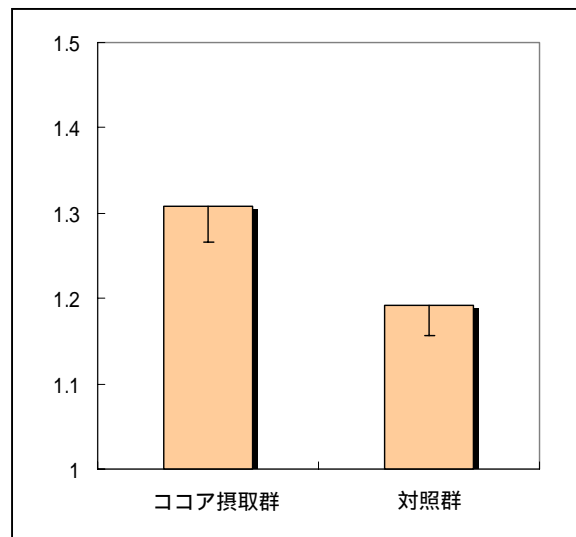
新型インフルエンザ罹患歴がない被験者を 123 名を対象に、新型インフルエンザウイルスワクチン接種時の免疫応答を 3 週間実施(午前中に 1 杯)。その結果、中和抗体価は両群ともに有意に上昇し、ワクチンの効果が両群ほぼ同等であることが明らかになった。NK 活性については、ココア摂取群の方が対照群に比較してより高く上昇することが明らかになった。(下記グラフ参照)

【ココア摂取による中和抗体価の変化】



ココア摂取群及び対照群ともにワクチン接種により中和抗体価が有意に上昇。双方の上昇程度に大きな差はないと言える。

【ココア摂取による NK 活性の変化】



ココア摂取群及び対照群ともにワクチン接種により NK 活性が有意に上昇。**ココア摂取群の上昇程度が有意に高かったと言える。**

中和抗体とは

ワクチンを摂取した時や、感染症に感染した時に獲得する免疫(獲得免疫)の一つ。ウイルスの感染を抑制する働きがある。

NK 活性とは

全ての人に生まれながらにして備わっている免疫(自然免疫)の一つ。

講演 : 臨床現場におけるココアの効用

／ 埼玉医科大学総合医療センター-高度救命救急センター 準教授 間藤卓先生

臨床の現場において食品には扱いにくいものがあるが、ココアには服用しやすい、アレルギーの心配が少ない、作用機序が（ある程度）理論的に説明できる等の利点がある。

また、これまで10年以上にわたり森永製菓(株)と共同研究を行い、カカオ効果の実態として創傷治癒促進効果、便通促進効果・便臭軽減効果、末梢循環改善効果（冷え性への効果）等があげられる。

今回、ココアの抗インフルエンザ効果の観察実験を行ったところココアにより風邪症状が軽減できる可能性があることがわかった。

まとめとしてヒト臨床試験の結果から、今回見いだされたココアの免疫強化効果（中和抗体価〔獲得免疫〕の増強、およびNK活性〔自然免疫〕増強、特に後者）が、臨床で見いだされたインフルエンザおよび風邪症候群の症状の軽減傾向と、関連がある可能性がある。

今までは風邪にかかる、かからないという事が注目されてきたがココアには漢方薬と似ていてかかって軽く治るといった効果が期待できるので非常に興味深く、これからも研究を行っていく。

